

ネズミとヘビの奇妙な〇〇〇〇

松下 恵美子

「自然観察」とわざわざ時間を設けずとも、田んぼ作業をしていると様々な生きものの生態を目にすることができます。田んぼの中からヤゴやタイコウチ、コオイムシが出てきたり、水面を泳ぐハシリグモが小さなカエルを捕食しているのを見ることがもできます。まわりの山からは季節ごとに異なる鳥の鳴き声が聞こえたりもします。しかし、今回、ご紹介するのは田んぼ作業中に見たことではなく、小山町YPPが所有する物置のなかでの出来事です。この物置があるのは、谷津田の一部に土を盛った広場（コケリンドウの生える場所でもあることから私たちはリンドウ広場と呼んでいます）です。広場のまわりには斜面林があり、前には学校田んぼがあります。この物置には、私たちが活動するために必要な鍬や長ぐつなどを保管しています。

一昨年前の5月半ば、YPPのメンバーの1人が、物置の中に1メートルほどのヤマカガシが入っているのを見かけました。ヤマカガシは谷津田に生息するヘビで性格はおとなしいのですが、毒キバを持つ要注意生物の1つです。体側面に赤と黒の斑紋がはいっているのが特徴です。5月は、田んぼで育った二ホンアカガエルやシュレーゲルアオガエルのオタマジャクシに足が生え、たくさんのカエルが田んぼのまわりで飛び跳ねる頃。カエルを狙って、徘徊するヤマカガシをよく目撃します。物置に入っていくカエルを追いかけて一緒にヤマカガシも入ってしまったのかもしれない。しかし、物置の中を探したが姿はなし、しばらく入口を少し開けっ放しにしておいたそうです。メンバー皆に注意するようメールがまわってきました。その後、ヤマカガシの姿を物置の中で見ることはありませんでした。普段から作業中は開けっ放しにすることが多いため、食べるものがなければすぐに出ていこうと思っていました。田植え、草刈り、稲刈り、脱穀…季節は進み、忙しさもあってヘビ騒動は忘れられていました。

一方で、物置ではもう一つ異変が起きていました。普段から人の出入りも多く、いろいろな道具を出し入れするため、床の汚れなど気にもとめなかったのですが、夏過ぎから床にもみ殻が散らばるようになりました。始めは、種粃として使った粃が無造作にビニール袋にいれてあるため、誰かが落としてしまったのかなとか、物置で保存している稲束についていた粃はずれたのかなとしか考えていませんでした。しかし、よく見ると床に散らばっているのは粃ではなく、玄米を取り出したあとに残る粃がら。なぜ？ と思うようになったため、物置に行くたびに床を掃くようにしました。

すると、きれいだった床に粃がらがたくさん散らばっています。これは何者かの仕業？ と思い物置内を掃除がてら搜索しますが、何もいませんが、粃がらと一緒に消しゴムのカスよりも小さな黒いものも落ちていました。青虫でももう少し立派なフンをするなどと思いながらも、いたずら者を見つけだすことはできませんでした。しかも物置内の異変はこれだけではありません。小さな棚の引き出しにしまってあったトイレトーパーやビニールのゴミ袋などがビリビリに破られていました。片付けても違うものが破られてしまいます。犯人は？ と気になりつつも、脱穀しなければならぬ粃がたくさんあり、なかなか物置内の搜索にはいたりませんでした。

10月末、学校田んぼの脱穀も終わり、学校に貸し出した脱穀機などが返却されるため、物置を片付けた時のことです。棚の一番上に藁くずが入った袋が置かれていました。今年の藁くずと一緒に田んぼにまこうと袋を持った瞬間、なんと袋の中でカサカサ、コソコソと音がするではありませんか！ よく見ると袋の中には7~8匹の小さなネズミが入っていました。袋の口は縛られていたものの緩かったため、小さなネズミでも出入りできたようでした。ネズミが出ていくように物置から離れた場所に袋の口を開けて放置しました。すぐにYPPのメンバーが来たので、ネズミを見せようと袋を持ち上げた瞬間、そのメンバーが「キャ～」と声をあげました。ヤマカガシらしき柄のヘビが袋の藁くずのなかでとぐろ

をまいていたのです。袋の中ではまだカサコソと聞こえていたのでネズミもいたようでした。あまりの驚きで袋を投げ捨て、その日は退散。次の日に袋の中を確認すると藁くすだけになっていたの、それを田んぼにまき、袋を処分しました。

もし、このヘビが5月に物置に侵入したヤマカガシだったとしたら、5カ月もの間、しかも夏の高温となる物置で生活していた生命力に脱帽です。一方でヤマカガシににらまれながらも物置内を自由気ままにいたずらしていたネズミたちにも驚きです。しかも、8匹近くいたとなると出産でもして増えたのか、ヤマカガシがいなければ何匹になっていたかわかりません。ヤマカガシはネズミを追いかけて袋の中に入っていった？ 体が乾燥しないように袋の中に潜んでいた？ 謎は深まるばかり。ネズミも逃げ出せる環境にありながらも、袋の中にいたというのは不思議です。ただ一説によると、ヤマカガシの主食はカエルであって滅多にネズミは食べないとありました。このビニール袋の中の奇妙な同居生活をどう理解してよいのかわかりません。

とにかく、物置の糞がら事件の犯人もネズミだったと一件落着するはずでしたが、その後も糞がらの散らばりはなくなり、黒いフンも落ちていました。しかも、不思議な出来事はほかにもありました。田んぼ作業で水が入ってしまった長ぐつを逆さまにして乾かしておいたのですが、逆さま長ぐつの足先に、糞から取り出した玄米がびっしりと詰まっていたのです。糞摺り機にかけたようなきれいな玄米でした。箱の中に折りたたんであった長ぐつの足先にも、玄米が詰め込まれていました。糞をむく、それを食べずに貯蔵するといったことからノネズミの仕業としか思えません。ノネズミの習性として「得た食物を巣の内部のあちこちに分散して貯蔵する習性がある」とウィキペディアにありました。長ぐつの足先を巣だと思ったのか、何足もの長ぐつから玄米が見つかりました。となると、ヘビと同居していた以外にもネズミはいると思い、物置大掃除を決行。まず、ネズミが潜んでいそうな藁束を慎重に取り出しましたが、1匹もいません。脱穀機、唐箕、臼など大きなものを運び出しましたが、姿は見えません。ガタガタしたため、私たちの目を盗んで出て行ったかと思いつつビニール製の土嚢袋を取り出した瞬間、2匹のネズミが飛び出てきました。ネズミもパニックになり、物置内を逃げ回ります。出口に誘導しようとはしますが、なかなか出て行ってくれません。ほうきなどを使って2人がかりで30分ほどの捕り物劇は続き、飛び出すように物置から出ていくネズミの姿を確認しました。

大掃除も終わり、ネズミさんにも退去してもらい、一安心と思いましたが、その後も床には糞がらが落ちていました。あえて長ぐつを逆さに干してみると、玄米が何粒か入っていました。まだネズミさんと私たちとの同居生活は続くなと思っていきましたが、ある日を境に糞がらがなくなりました。仲間もいなくなったため、出て行ってしまったのだろうと思っていきましたが、長ぐつを干していた棚の下あたりに1匹のネズミの死骸がありました。

その後、物置での怪事件はなくなりました。ヤマカガシとノネズミが共同生活できること、ネズミがどんな場所にでも食物を貯蔵したり、糞を上手にむくことなどなど…この小さな物置の中で、谷津田の生きものの不思議な生態を垣間見ることができましたので、ご紹介させていただきました。不思議な楽しい出来事がおこる谷津田。ぜひ、足を運んでみてください。





里山たんけんレポート

第207回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2017年4月2日(日) くもり

三寒四温と言いますが今年は寒の方が優り、花々は開花が遅くコブシは満開に至らず、フデリンドウの蕾も堅い状態でした。例年オタマジャクシが見られるアズマヒキガエルはまだ産卵もしていませんでした。気温のためか、環境に変化があったのか気懸かりです。それでも歩く道すからは春の草花でいっぱいです。ショウブの香りやキュウリグサの葉を揉んで香りをかいだり、畦ではタネツケバナを摘んでは口に運びピリ辛の味を楽しんだりしました。湿地にはネコノメソウが広がり花をつけているところもありました。林内ではウグイスカグラの淡いピンクの小さな花を見たり、その株元では葉にまだら模様があるヤマホトトギスの若い葉が出ていました。どちらも鳥の名がついている植物が一緒にあって面白く感じました。



冬鳥は繁殖地へ旅立っているのか、出現は少なかったのですが、アオジの地鳴きはいくつも聞かれ、開始前にはアカゲラの声も聞かれました。まだ、留まっているものもいました。

気温が低く、チョウも飛ばず、昆虫はわずかにナナホシテントウやギシギシの葉にコガタリハムシの幼虫が見られた程度でしたがニホンカナヘビやニホンアマガエルに出会いました。あと、2~3日もして暖かくなると一気に季節が進む気配を感じた谷津の散策でした。

高校生2名のボランティア参加がありました。今後の行事にも参加予定で受付など手伝っていただきます。

(参加 大人14名、高校生5名、小学生4名、幼児3名；報告：網代春男 写真：田中正彦)

第204回 下大和田 YPP「苗代づくり」

2017年4月1日(土) 雨

今年の米づくりのスタートです。季節外れの寒波がやってきて真冬の寒さと雨の中、みんな元気に参加してくれました。はじめて下大和田の谷津田に来られた方には「谷津田ってどんなところ？」というのをちょっとひと巡りして見ていただきました。その間に他の方は田んぼに種籾をまく苗床を作りました。さあ、今度はいよいよ種籾を播きます。3月27日に水に浸し芽出しをした種籾を播きました。小さい子どもも泥深い田んぼに足を取られ、悪戦苦闘しながら播きました。そして播いた種籾を上から押さえて見えなくなる程度に埋めました。柔らかい弾力のあるぶよぶよした苗床を押さえる感触はなんとも良いもので忘れられないものになるでしょう。



午後からは苗床に保温と鳥よけのため、割った竹でトンネルを作り、シートを掛け、裾を田の土で押さえました。予定時刻より早く作業は終わり、記念写真を撮って解散しました。

(参加 大人16名、小学生8名、幼児1名、報告 網代春男、写真 田中正彦)

第139回 小山町 YPP「コシヒカリ・黒米の苗代づくり」

2017年4月8日(土) 雨

YPP 田んぼに黒米、あかがえる田んぼにコシヒカリの苗代を作りました。浸水したコシヒカリの種もみが半分も余ったので、こぼたると直まきしようということになり、手前半分くらいの草をざっと取って泥に混ぜ込んだモミを田んぼに投げるように蒔きました。



おおほたる田んぼの畦が低くなっているところに、土を盛る作業もしました。道具や長靴を洗って帰ろうとしたら、あすみ小田んぼの脇のコンクリート水路の上にオタマジャクシが流れ出ているのを見つけ、調べてみると畦に空いたトンネルから水が漏れていました。穴は水路沿いに延々と5m以上続いており、トンネルの中でオタマ

ジャクシが泳いでいました。田んぼではシュレーゲルアオガエルが元気よく合唱していました。あざみ谷の①番田んぼの上の休耕田と倉一さんのおおほたる田んぼにアズマヒキガエルの卵がたくさんありました。田んぼの中はアカガエルのオタマでにぎやか、畦ではニョイスミシやヘビイチゴ、ハルジオンなど春の草花が次々と咲きはじめています。あざみ谷の斜面林の縁でタチツボスミシに加えて濃いブルーのホタルカズラが見頃です。

(参加 大人7名、報告、写真 高山邦明 2017/4/28 撮影)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 4月 8日 アズマヒキガエル産卵。ニョイスミシ、ヘビイチゴ、ハルジオン、タチツボスミシ、ホタルカズラ咲く（高山）。
4月 15日 羽化したばかりのシオヤトンボが草の中で羽を乾かしていた（柳町）。
4月 16日 山の奥、コジユケイが元気よく鳴く。白くなった藁束から白くなったアマガエルがこんにちは（稲富）
4月 20日 田んぼの上空をサシバが飛び（松下）
4月 25日 田んぼの周囲、シオヤトンボが乱舞。カワトンボ、冬を越したホソミオツネトンボの姿も見られた（高山）。

下大和田

- 4月 5日 フデリンドウ咲く（網代）。
4月 7日 アズマヒキガエル産卵。昨年は3月16、17日だったのですいぶん遅い（網代）。
4月 12日 ニホンカワトンボ、シオヤトンボ、オンドリ、サシバ今シーズン初認（網代）。
4月 22日 オオヨシキリ初鳴き（網代）。
4月 25日 ウミズザクラ、キンラン開花（網代）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト（YPP）のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

- ご注意：
・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第 206 回「田植え」・第 207 回「田の草取り」(第3・4回米づくり講座)

4月に播いて育てた苗を田んぼに植えます。コシヒカリ、緑米、赤米、黒米、農林1号と植える稲がたくさんありますので、たくさんの皆さんの参加をお待ちしています。メダカやトンボ、カエルなど生きものとたくさん出会える楽しい作業です。6月は稲の生育を阻害する田んぼの中に生える草を取ります。

日時： 田植え 2017年5月13日（土）9時45分～15時

田の草取り 2017年6月10日（土）9時45分～14時 *いずれも小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのうちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴（田んぼが深いので長めがいい）、帽子、軍手、敷物

参加費： ちば環境情報センター会員および家族 100円、一般 300円、小学生未満無料

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

▼第 209 回 下大和田 6 月の谷津田観察会とごみ拾い

生きものが最も賑わう季節です。子ガエルは畦をぴょんぴょん跳ねています。ホトトギスの声を聞きながら谷津を巡ります。

日時： 2017年6月4日（日）9時45分～12時 ☆小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（同上）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（下大和田 YPP に同じ）

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴（長めの物）、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時： 2017年5月14日（日）、5月19日（金）いずれも9時45分～15時

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（同上） 持ち物： 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催： ちば環境情報センター

▼第 141 回、142 回 小山町 YPP「コシヒカリ・黒米の田植え」

苗代で育てたコシヒカリと黒米の田植えをします。

日時： 2017年5月21日（日）、28日（日） 10:00～12:30、小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴（田んぼが深いので長めがいい）、帽子、軍手、敷物。

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば環境情報センター

編集後記 谷津田は今、生き物たちの命は日毎に満ちて、膨らむ勢いは爆発の如く。シジュウカラの囀り、コジユケイの雄たけびをBGMに苗代をこさえ、「スクスクと育て！」と祈るばかり。（赤シャツ親父）